

放射線に関する意識動向の調査

Survey outcome of the trend of public awareness about radiation

*大磯眞一

(株)原子力安全システム研究所

福島第一原子力発電所事故以降、放射線に関する関心が高まっている。事故後の放射線に関する意識および知識、リスクのとらえ方、理解方策について知ることをねらいとして、放射線に関する意識動向の調査を行った。

キーワード：福島第一原子力発電所事故、放射線、意識動向、質問紙調査、理解方策

1. 緒言

平成 26 年度に、平成 24 年度に実施した放射線に関する意識調査の結果を踏まえ、関西地域における成人男女 1,110 人を対象に訪問留め置き方式で質問紙調査を行ったので、2 年前の結果との比較を含めて報告する。

2. 結果・考察

(1) 放射線に関する意識および知識

放射線に対して不安に思っている人は 7 割強を占める（男性：7 割弱、女性：8 割弱）。クロス分析の結果、どんなにわずかな放射線でも受けたくない方がよいという人では、放射線に対して不安に思っている人がほとんどである。

2 年前の平成 24 年度に比べ、放射線に関する基礎知識に大きな変化はない。放射線は風によって進む方向は変わらないことを理解している人は 1 割強に過ぎなかった。

がん治療や文化財の調査など、放射線利用に関する知識は 2 年前に比べ増加したが、長袖の服を着るとかマスクをするといった、原子力災害時に放射線から身を守る知識については、2 年前に比べ低下した。

(2) リスクのとらえ方

ゼロリスクは可能という人は 1 割強に過ぎず、ベネフィットを得るためには幾らかのリスクは避けられないとする人が 6 割強を占めている。また、放射線を受ける量と様々な生活習慣の比較により、がんの相対リスクの説明をすることの有効性が示されたが、一方で説得されていると感じる人も 4 割強を占めることがわかった。

(3) 理解方策

微量の放射線はあまり心配しなくてよいと思える情報として、7 割強の人が、自然放射線の量と胸の X 線検診で受ける放射線の量を比較する情報を挙げた。微量の放射線について理解を得るには、1 年間に自然界から胸の X 線検診数十回分（40 回分程度）の放射線を受けるということを知ってもらうことが有効であると考えられる。

さらに、年間の自然放射線の量や胃の X 線検診 1 回の放射線の量を知ってもらうことで、一般公衆の線量限度（年間 1 ミリシーベルト）とは、どれくらいのレベルなのか、具体的に知ってもらうことができる可能性がある。放射線の人体への影響に関する情報について 6 割強の人が信頼できる情報源として医師を挙げており、医師への信頼が高いこともわかった。また 8 割弱の人が、放射線について学習すると放射線に対する不安が和らぐと回答した。

3. 今後の課題

放射線について学習することにより、放射線への不安が和らぐという回答が多いことは、放射線教育の重要性を示唆している。一方、年間 1 ミリシーベルトといった数値の意味について人々に理解してもらうことが課題となっている。今後、自然界や X 線検診で受ける放射線の量などについて、放射線の量を考える場合の基準として、人々に情報提供していくことが望まれる。

参考文献

[1] 村井健志(2013) 放射線教育の現状と放射線に関する意識調査 Journal of the Nuclear Safety System, vol120, 28-37

*Shinichi Oiso

Institute of Nuclear Safety System, Incorporated